



まつもとじゅん

松本純

中区・磯子区・金沢区
まちかど
政治瓦版



令和4年9月1日号
発行

自民党

松本純 後援会
発行責任者
平木 茂

9 月号
2022年

No.234

松本純ホームページ▶<https://jun.or.jp/>

ご意見箱▶opinionbox@jun.or.jp/

「開港の地」新時代 関内駅周辺地区のまちづくり

ヨコハマが変わる 歴史と文化芸術、産学連携、観光・集客の拠点へ



関内駅周辺のまちづくりが進んでいます。教育文化センター跡地には、関東学院大学が来春移転予定であり、旧市庁舎跡地も大きく変わろうとしています。

1959年（昭和34年）に竣工した村野藤吾設計の戦後モダニズム建築の名作である旧横浜市市庁舎は耐震、免振工事が行われ、関東学院大学のサテライトと産学共同の研究拠点となり、上層階は高級リゾートホテルに生まれ変わります。また、旧議場跡は新たなタワービルへと変貌します。

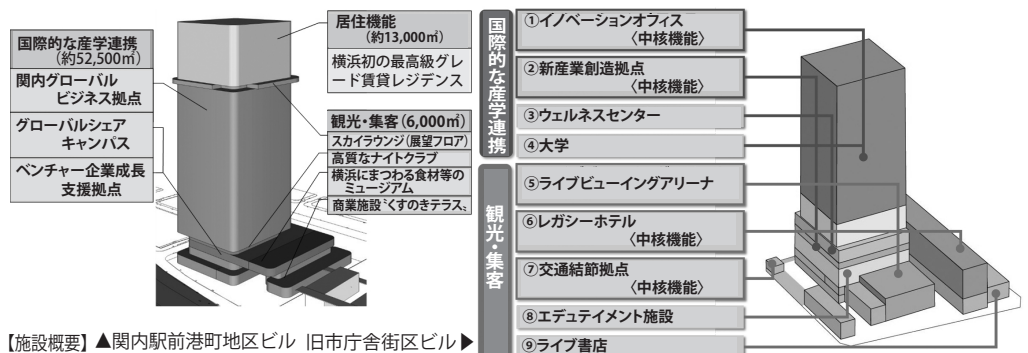
また、関内駅港町地区も再開発が進む予定であり、その周辺地区も環境アセスメントが始まっています。

横浜市全体の再開発、歴史を重んじながら、新たな街へと変貌を続けてゆきます。これらの一連の再開発は大きな都市の設計図に基づいたものであり、ペDESTリアンデッキや新交通などにより、それぞれの地域が分断されことなく、地域の特徴を残した形での開発です。

東急東横線横浜桜木町間の廃線に伴う野毛の衰退に抗うことが松本の政治家の原点です。それぞれの地域が分断されことなく、人が循環し、ともに発展する街づくり、それがさらに一歩進もうとしています。



関内駅前に誕生する二つのタワービルに注目！
再開発の中核を担う「旧市庁舎街区ビル」（画像右）と「関内駅前港町地区ビル」（画像左）



【施設概要】▲関内駅前港町地区ビル 旧市庁舎街区ビル▶

【2022年7, 8月】

松
本
純
の
活
動
記
録

《7月》

- 17日●富岡八幡宮例大祭大祭式・祇園舟神事
- 20日●令和4年福神会“納涼のつどい”
- 24日●手子神社夏季例大祭神事
- 29日●フィリピン来客陳情面談
- 30日●2022年夏の吉田まちじゅうピアガーデン
- 31日●山元町二丁目商店街朝市

《8月》

- 4日●志公会
●日本生活協同組合連合会説明
- 9日●靖国神社参拝
- 10日●堀谷義明先生お別れの会
- 13日●誠友会例会
- 15日●森浅間神社例大祭式典
- 21日●中原熊野神社大祭式



7/17 富岡八幡宮例大祭大祭式・祇園舟神事●祇園舟は八幡宮創設以来の伝統神事。青茅で造られた12本(一年分)の御幣に諸々の罪穢を託し、沖合へ流し遣る「夏越の祓」により、心身を清め、無病息災を祈願します。



7/20 令和4年 福神会“納涼のつどい”●齋藤浩会長から「参院選での自民党の大勝利に続き、来年の統一地方選挙でも、我々福神会は結束して自民党を応援する覚悟です」との挨拶がなされました。



7/24 手子神社夏季例大祭神事●佐野和史宮司により斎行された神事後、氏子総代・芳垣倉蔵代表より挨拶があり、神社下では宿町内会保存会による山車と万灯神輿、祭囃子が例大祭を彩りました。



7/30 2022年夏の吉田まちじゅうピアガーデン●バー・飲食の街、吉田町の36店舗が自慢のメニューを路上等で販売。野外ステージのライブ演奏の中、松本純も参加者の皆さんとの交流を楽しみました。



8/9 靖国神社参拝●私の叔父、海防艦稲木の艦長だった山田忠太氏(海軍中佐)が終戦直前の8月9日に青森県八戸港で米軍航空隊の襲撃を受け戦死しました。毎年参拝を続けてきた叔母も亡くなり、お二人のご冥福を祈りました。



8/15 森浅間神社例大祭●松本小寿恵宮司の祝詞奏上に続く玉串奉納で、松本純も加藤健一総代代行と共に玉串を奉りました。加藤代行から、「来年こそコロナ感染を克服した本格的祭礼を」との力強い挨拶がなされました。



8/20 子之大神例大祭斎行●子之大神例大祭が阿久津裕司宮司により斎行され、野毛一丁目の杉野芳之会長をはじめ野毛二丁目、野毛3・4丁目、花咲町一丁目、花咲町二丁目、花咲町三丁目、宮川町の各会長、副会長が集まりました。



8/21 中原熊野神社大祭式●杉原博昭宮司より、三年に一度実施している境内の樹木伐採の報告があり、心機一転、来年こそはコロナを克服した従来通りのお祭りを、地域の皆さんと共に実現したいとの挨拶がありました。

永田町日記

旧長濱検疫所(金沢区) 保存へ動き出す

登録有形文化財 一号停留所

国指定の登録有形文化財、旧長濱検疫所一時停留所(横浜検疫所資料館)が保存に向けて動き出しました。検疫所移転に伴い取り壊しの危機に陥った施設に対して、金沢区の有志(NPO法人横浜金沢文化協会)が保存に向けて立ち上がったものであり、松本もこの活動に精一杯の支援を行ってきました。

その結果、所轄の厚生労働省は、保存と移転のための予算と支援を行うことを決定し、その後の維持管理は横浜市が行うということで話し合いが進んでいます。現在、移転場所を含む最終調整が行われています。確実に実現されるように松本はできる限りの協力を続けます。

【登録有形文化財 一号停留所とは】

一号停留所は、長濱検疫所(横浜検疫所の前身)における上等船客用※の停留施設として、明治28年(1895年)3月に完成しました。建物は、ほぼ東西に長く、南面の両端が突出したコの字型、左右対称の平屋で、当時は、東京湾を見下ろす高台に広い芝庭を前にして建っていました。所内には8つの部屋(一室2人用)、食堂及び談話室があり、感染症の疑いがある方々が一定期間滞在していました(建坪は127.25坪(約420m²))。長濱検疫所の建物の中でも、特に明治の面影を残すものとして評価され、現在は、「検疫資料館」として検疫業務等に使用した資料の展示を行っています。※「上等船客」とは当時の旅客船賃「一等・二等」などの利用者です



旧長濱検疫所一時停留所 (横浜検疫所資料館)



保存に向けて立ち上がったNPO法人横浜金沢文化協会の面々